

子どもたち一人一人の学力を高める研究

－図画工作科における育てたい資質や能力を意識した指導と評価の工夫－

1 研究の内容

1 主題設定の理由

本校では、これまで、図画工作科において、育てたい資質や能力を意識した指導を行ってきた。児童が自分なりの発想で指導錯誤を存分に行うことを保障することにより、そこには多種多様な表現で生き生きと活動する児童の姿が見られるようになってきた。そこで、育てたい資質や能力を意識した指導と評価について研究していくことにより、子どもたち一人一人の学力の向上に努めたいと考えた。

2 研究仮説

図画工作科において、4つの観点を意識した指導と評価を行うことにより、子どもたちの学力は高まるであろう。

3 研究の内容

4つの観点を意識した指導と評価を工夫する。

【授業づくりの流れ及び指導と評価における工夫のポイント】

	授業づくりの流れ	指導の工夫（手だての実践）	評価の工夫
4つの観点を意識	◇題材の選択	※年間計画に基づく，教科書準拠	
	◇題材の理解	※題材分析，児童の実態把握	
	◇目標の設定	●育てたい児童の資質や能力の明示	●評価規準の作成
	◇指導過程計画の立案	○題材との出会わせ方	●評価の重点化・焦点化
	◇指導(授業)計画立案	○場の設定・準備	●評価方法の検討
	◇授業実践	○「4つの力」カード，ねらいの提示 ○ピピッとタイムの活用 ○教師の言葉掛け ○支援を必要とする子どもへの手だて ○学習カード・ふりかえりカード ○図工ポスト（ピピッとカード）	●評価と指導・支援
	◇実践の振り返り		●評価資料の統合・調整
	◇題材での最終評価		●評価のまとめ
その他	○校内展示の工夫（ピピッとギャラリー等） ●中学校との連携・交流（必要に応じて保育園も） ○保護者との連携 ○地域素材の活用		

本年度の研究は、前年度までの研究の成果である上記の○に示す手だてを、発達段階や児童の実態に応じて工夫しながら講じ、課題としている「客観的な評価」に迫るため、上記の●に重点を置いて研究を行う。「4つの力」は常に発揮されるものであるが、題材や指導過程の全体を通して、バランスよく「4つの力」が発揮されることに配慮しながら、4つの観点を意識して指導過程や授業を組み立てていく。要するに、題材のねらい、指導過程における毎時のねらいなどを根拠に、指導のあり方や評価の重点化を試みる。今使う（ねらいに則した）力が明確になれば、児童が自信を持ってそれらの力を存分に発揮して活動していくことができるであろうと考えた。

II 成果と課題

1 成果

■ 指導と評価の重点化・焦点化

指導と評価について「4つの観点」を意識する中で、あえて、その題材において付けたい（伸ばしたい）資質や能力を重点的に取り上げたことによって、子どもにも教員にも分かりやすい授業のめあて（評価のポイント）の設定が容易となり、指導と評価における教員の負担軽減（客観的な評価）にも貢献している。

■ 評価方法の工夫について

行動観察、発言、カード（学習カード、ふりかえりカード、鑑賞カード）の記述、映像・画像での記録、つくりつつあるもの（作品）の様子等の評価方法を題材や児童の実態・発達の段階に応じて、組み合わせながら多面的にとらえ、個々の評価に生かすことができた。「児童の思い」「ふりかえり」については、作品画像の中に自分が発揮した力を「4つの力」ミニカードから選択して添えることによって、児童の思い等の把握が容易になり、教師の評価活動を補う要素ともなった。児童の自己評価・相互評価等も有効な評価資料として活用することができた。

■ 図画工作科の「4つの力」カードの提示

4つの資質や能力を子どもたちにもわかる言葉と絵で簡略化してキーワードとして示した。この「4つの力」カードを授業の始めに提示することにより、子どもたちにとっては発揮する力のめあてとなり、教師にとっては指導や評価・支援の視点となった。

2 課題

■ 指導と評価の重点化・焦点化

- ・題材の指導計画の中で4つの観点それぞれのウエイトをどう置くか。
- ・「4つの観点」に基づく付けたい（伸ばしたい）資質や能力に重点化・焦点化した題材をバランスよく配列した年間計画を構築する。

■ 評価方法の工夫について

題材の指導過程において、「4つの観点」のそれぞれの資質や能力の表れや伸びをどのように評価（評定、個々の評価の総括）に結びつけていくかなどの判断の仕方について課題が残る。

■ 図画工作科の「4つの力」カードの提示

「4つの力」カードの提示については、並べ方において順序・順番の意味が固定化されてしまう傾向もあるので、指導と評価の重点化・焦点化の視点からも、順序や順番に配慮した提示の仕方に工夫の余地がある。

（研究主任 遠藤建生）